特集「安保3文書」改定

安全保障新時代

編集委員会

政府は12月16日、臨時閣議を開催し、防衛力の強化に向け、新たな国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の「安保3文書」を決定しました。

ロシアは国連常任理事国で核武装国家でありながら隣国を軍事侵略し、世界第2位の経済大国で同じく常任理事国の中国は台湾への武力行使を否定せず、事実上の核武装国家北朝鮮はミサイル発射を頻繁に繰り返しています。国連が世界の安全保障を確保するというはかない夢に多少なりとも期待を抱いていた日本もようやく夢から覚めざるを得なくなりました。

自国は自分で守らなければならい。このごくまっとうな考えに基づいて、今回の「安保3文書」はまさに安全保障新時代を画するものと言えましょう。2013年の旧国家安全保障戦略では積極的平和主義を掲げどちらかと言えば外交力で安定した国際環境を創設する一方、防衛力はあくまで自国防衛を主軸にしていました。しかし新たな国家安全保障戦略では、地域の安定のため多国間の防衛協力や準同盟といった枠組みを構築するなど、より能動的に安全を確保しようという意志が明らかにされました。また日本独自で侵略国の弾道ミサイル攻撃に対処し得るようにするため、「反撃能力」の保有が明記されるなど、専守防衛の範疇は崩せなかったものの基盤的防衛力構想から、脅威対応の考え方にシフトし、日本の安全保障の考え方は大きな転機を迎えました。

しかし全般に自衛隊の装備強化、宇宙・サイバーなどの強化、技術力強化など目に見えるものばかりに記述が偏っているように見えます。

もっとも重要な国民の「国を守る意思・気概の強化」が抜けているように思います。主権者たる国民が自国の主権と平和を守る強い意思なくして安全保障はありません。日本は国が侵略されたら銃を執って戦いますかという問いに「はい」が最も低い国として有名になっています。長距離ミサイルで反撃する前に手を挙げると思われれば抑止力もあったものではありません。新しい国家安全保障戦略では最後に「社会的基盤の強化」としてほんの少しそれらしいことが記述されてはいます。学校教育を含め国民教育・啓蒙の重要さをもっともっと強調し、一旦緩急あれば「偕に行こう」という気持ちをさらに育てたいところです。

『偕行』3・4月号では、特集として、偕行社の有志から安保3文書についての解説と、忌憚のない意見を投稿していただきました。熟読玩味のほどをお願いいたします。

「安保3文書」の改定

新	旧
国家安全保障戦略 旧国家安全保障戦略に経済やサイバーなどの分野も含めた戦略的な指針	**国家安全保障戦略** 国家安全所掌に関連する軍事、外交に関する基本的な方針
国家防衛戦略 国家安全保障戦略の中で防衛部門の目標を達成するため指針	**防衛計画の大綱** 防衛力の整備・維持・運用の基本的指針。別表で基幹部隊・主要装備の数量提示
防衛力整備計画 10年程度を見通した自衛隊の体制と5年間の防衛総額や主要装備を提示	**中期防衛力整備計画** 「大綱」に基づき5力年の防衛費総額や装備品の数量を別表で提示